新鬼神論

中

口 10
26
2

日本10
26
巻2

大東仁孝明
平和堂
昭和十年下賜

商

新鬼神論 第二

家語に顔回問於孔子曰成人之行若何子曰達於情性之理於物類之變知幽明之故觀游氣之原若此可謂成人矣既能成人而又加之以仁義禮樂成人之行也若乃窮神知禮德之盛

せなどと見えることとろふべし

けゝ又淫祀ハ云〳〵古傳說なるべし孔子ぞりの人も世ニハ大直日神と大禍日神と在ること

此二柱の神の故ちゝ熟く古傳を究めたるべし

日本10
26
巻2

その御所行も甚しく異かしく禍神の靡き慕ひ依
ふるとしも直日神の御力もあらひなくなくなく忘れ給
の心なまりも生きるふ故善人禍夏て多ひ悪人も
福を得るとも行るれ抑の猶安き御を知らるる禍
福吉凶と神天命とそへ
ひるを丹面牛ら疫病癒て命矣夫斯人也而有斯
疾也とそ司馬魋ら殺さむと討り名と紀
天生德於予桓魋其如予何とその將行也
與命也道之將廢也與命也とへる類まつ
行事と天我の命とそひ為ふるる

此者實ま我みなの事なり今此所は直日神と禍神の
御所行の事をいまいまの段の大代かはは郡小
生へき桑木の朝廷より七日ゐと両手に捧る牛
王ちまなるまま紂王か時ま崔の大鳥を殺る
多まるまり此をまに禍夏の殺るつき駿なるとそふ怨
ゐを大代ふ事くつまるまるは善事と行ひ悪
禍を直しまるふこも大直日神の御霊を猶まるまるの御力
のなへるまるまる紂王のその猶も猶まるて武王の亡されし
多まるハ禍ハ神の御ぐこそ悪しく直日神の御力も
及ぼさるまるまり

唯小影のみ関ることハ何の益もなくいと浅ましく
思ふ人もあるべきなれど世を実に一朝一夕のみにて
しかるべき君臣をしるべき妙なる故由ありて真の道
小志しある人いかゝ其を学ひ学ひこの妙なる趣を悟
るべきなれども多分信小量衰亡の夫国家を存亡
禍福信有天命唯非人之所為にして孔子のこの
太は紂王の事を引き存亡禍福皆己而已天莫
把妖孽加之と云へるなるべし孔子の
法なるハ此ハ正しく善行を勧めむとて影をへる
なるべし然るを左伝の禍の条にむとひるを直し

紂王の云ひ為るなるハ此諸ゆく会ひ為るとまる盗
跖なるの如く悪事のみにて善へ孔子の
人の生涯より記事なるべく孔子のみにて
いかゝ禍福皆己而已と云へるもいかゝ影を
なるハ盗跖ハ福の有ひ孔子ハ禍を受つる
事なり然るに此誤ハ一時善行を勧めむとて
なるべしとハ云ふべし禍福皆天而已と云へる孔子の
本意なりなるべきを為ん川上なる伯牛の疾
を見て命矣夫斯人也而有斯疾やと云ひ又
富貴有天と云へるもいかゝ是善悪の

神の所為とおもへる国土生まれて行末も天神
の為なれば世もあらんかぎりなるべき所藏に新
なるべきことなりされば福福皆己に由る
人々の親の位も禍福無門唯人に所召なるべし
有ることもためしの餘の君にこそ聞えもとも
と定めていはんひとさまもあり希ふ己より求め
ふとこひよさまもあるも大概は此語のめくなる
らん是ものの人事有此效之也有是偶然如此此
時とこそ海々孔子の時偏なる
まもとこそ海々此語を堆立むふ佛書
こそふ諸法如影像皆従因果生とこそひまし福樂自ラ
追如影隨形なるとこそ
かく直日神と禍日神とをたきに異なる所為のおろ
故あるべき傳授なくてはさきまもく孔子
うもこそすぐ況かの漢人等の天命の事をこそ天道
あるべき論へるべきに儒疑なる平穏なる説を更に
形く善人に禍有ひ悪人も福ありなどに至りく
ハ強りく難へる辛しく時運あるとこそ設けて
論ひ
但しこの時運とこそ所為なる孔子陳蔡の間に

苦しうしかるを聖人の影響慢なるに孔子に至るに由也
昔者周諸侯子曰為善者ハ天義以福為不善者天
報之以禍今夫子積德懷義待之久矣笑居之窟
せしうへるに孔子苦へ伯夷叔齊ハ餓死し龍逢比
干ハ殺されしなりと云ひしかく過不過ありけを時と
云ふこの如きを論しいつれも是ともいふ
此語実に孔子の云へるなりしも信ずし此ときふ
も空論なるを汝ハ天命に出へきハ福を禍淫を定めるに
会りぶらし影響天命も時運なるこもあるとせも
是福禍淫を天道と定むへきにあらず更なり

或きく定まるきしが則天徳の大きなるを汝ありと云ひ
あるひいこも常理をうしあひきるなりなと論へども此等
を尚否不天道福を禍淫と云ふ易不鬼神害盈而福謙
なと云へる不うち合ぬ事のこ善き人淫く悪きを
ともあり

文選なる運命論雜命論ハ宋儒者流の論ども
南秋江の鬼神論新井白石先生の鬼神論伊藤東涯
の天道論物茂卿徂徠の福を禍淫を非ずの類の
深きもあり或ハ善人ハ福あひ淫世まて人不
類を失ふ人ハ禍を得るなりと云ひ淫せ

訛らるゝことを得ざるなり善人の福あるを
を祖先の世より積る悪の餘波なるとゝひまた悪人の福と
得るゝことも祖先のなせる善の餘波なりゝとゝひ或ハ悪人
の福と得ることゝ天實を抑ふるすべの最と為くゝ
罰せむとの所為なりなくゝ云へり此ハとても易の十
翼左傳その餘も何々もの者とゝ法をつくゝ
云へるなるもハすくゝ僻説なり此と熟くゝ吉を学ひくゝさくゝ
その服を以くゝ彼者とゝを誘くゝ熟くゝ吉を学ひ
まる人ハ大概ハこの理をハさとらゝ
漢四人ハ左ゝ右ゝ正實の傳説を知らる故の僻

説なるもハまた難もるゝも足らるゝ皇國の学問者ハ
して此故を知らず西洋人と等無きをさとり法のゝゝ
所為あるゝ甚もロ行き事なりくゝ又世ハ在せるあり
事ゝもすくゝ天体把抵の御霊ハ洋るゝとなるゝ
洋くゝの人も能くゝ齋き祝るゝ事論ひなくゝ

此事ハ神老義の居るゝ安曲ハゝひ意まてゝ

ゝ則孔子のおゝ言あり漢國ゝハ後世ゝなるゝ洋ゝ神
祇を祖るゝもゝくゝゝらゝものゝ先ゝて神の洋ゝを彼ゝ理を
ゝて撞むくゝすもハ高くゝ此事なり神の洋上ハ吏ハ
西洋人のゝゝゝめゝ理屈めゝゝる事ゝて故義の玉

されバ世にいはゆる善神を祭りて福を祈るハことごとく
より又禍をまぬがれむとてあらぶる神をまつり和すも
吉の道なりけるを人の吉凶禍福ハ面々の心の邪正行ひ
の善悪によることなるを神に祈るハ愚なり神何ぞこれを
きかむとやうに云ふハ儒者の常の説なれども名だたに己が理
屈をのみ立て神道をしらぬハ例の生さかしき唐戎の
見識にしてこれ神にも邪神もあれバしかこそある福
のあるを理にしてさる故のひとごとなりと云はれしを能
おもひめぐらすべし又かの太宰純が経済録の祭祀と云ふ
条りにいへるハ時々祭をなして雨をとどめ風を止め国の

為民のために福を祈る祭をとりおこなふ常の人より
見も識も大に愚なるゆゑに面もて人力を尽さずして鬼神
祇の御恵憑(タノミ)により利を得んと求るなり神ハ聡明正直なる
ものなれバ聖賢の心のごとし あはれなる祭をうけて感応あることなし
鬼神の道理を知らぬところなり天地鬼神も民を憂ふるハ之
者の古説なり此段ハ尋常の経学者のとらぬ所の論なる
所にあらず云ふなれバ実に然る事なれバいよいよ其の道ま
務ひる説なりかりけくその心をとりむとせることとまつい
しかし大の玷瑕(ケカレ)をなして清浄ならず
但しこの火ま清浄なるといふとも尋常の学者のいふく

心ばかりなることなるが世をすくはんとの妙あり
ひとへ行ることをもちゐるべし
美前多くの神を人も敬ひてこうひ奉ひ色〳〵
おとろきまの祈願をなすべきなり奉ひて神の大
御心かなふべきなる此妙なる趣をよく〳〵吉を学ひ〳〵知人
〳〵或人問て曰く普通の識者の説に云ふ言ふ神は正
直なり〳〵競べき神も孫服装飾を飾り或は器物を
はせ新しを吐へ踊り〳〵は宮を修理〳〵まもむ猶馬を洒ぐ
まもあるどもひ〳〵祈ることを願ひ〳〵き願事あり人〳〵も
志あるものは願願を受るおとを加へすべき〳〵神の上す

於〳〵あやとり〳〵祭礼の祈りを受る神もあるはそは交わり〳〵邪
神なる〳〵〳〵おとなる言癖〳〵理を西〳〵云ふあり此偏ひ
はいかりにこそふは其りを凡人の常理を理を行くこへは當る
ら此〳〵なるを〳〵神は西ふ〳〵文あるさ〳〵奇異〳〵至るを
のし人を見ひ〳〵この情は違ふこと〳〵祭るは人ふ志り〳〵
のものをかの〳〵福りもすれ志り〳〵の初願らもとこふに変をて
変ざるはそもの〳〵歌〳〵見すれ其す変らは道なるにそひ又は
他の見解を怪をふ故すれ初すれ心を制へ〳〵変るるあり
まさは神は思ふ心志ひあ〳〵そのとのを変〳〵新ふすを竹
へ祈ふは見神の面を情あり警へは推あに業をあらくむと

約束をたがへまじきことを思ひ定めて
まことを成すべきなり。されば人の物をいふ真
心を曲げて受くるは偽りの始めなり。
ら文受くるはさまざまあれども他の見聞を加へ人の上の
事なるをんなを是別人の上の道なりまことを稀にはあ
なるべし。されども受くる人もあるべきもその人のさかふなる
は私の心情にしたがふまことのすはなきなりすべて動く変の上に
ことをつくるふるまことを変ずるまことは此はかりの形に漢の籍
のこと流る人この容易くんぬることは慮なりまことは難くこと
めつくすべきなりされば人の受あるをかしこく神の受給

ふを世なりとはいふべしすべて神の受のふをかりて人の
受ぬを直にすといはいよいよこれを変ずる受ることを直す
その人の異なるところをまことに神より析をうけてそのうけたる
物数なりとをいふなる始始あるべきことはいふもまことに
の道をなすべきの偽なりこれは神のことなり人の上にても
人なるの形むかいいくべきを成し得てまことにかりぬべ
いにもその人の心をこそむとたまを変ずるあるべきはなし
まことに自然の人性なりはさけても人の思をうけてその
好き情をあらはしすべきはいふ存ずるをまことを変ずるのこと
は何なるべき心なるかをすべきふべく物あるべきなるべし其

姿と情を表さむとなる是もまた然あるべきことはあるべし
即天津神の賜へる人の性みくすなはち是さは此
道なり然るに此意の轉ずるあるは此支なる新事
ふるさんとをもひ思ふもあるべきことなり
き事のかくもそなはれるは人の生するときさの性
より生ずる事ふくに事なるとなりと西我人なるときの
道てふ事をおもふるべくとの義をあるとすべて一向
ふるしきことなりとは云へるなり人なる器しく恵を受
多くなる得り物始りしすべ心不足なる時若く
欲くもの学ばしく此をを学べく

然るに神に祈りを奉るべく物をもも此をくに異なるべし
こをもをりくあるべくとは云ひもとの事ふもとを祈をく
をもおぼすべきなるべきもまたくこれ事なるべ
清らかに祓ひかくのものと称まるべくなる
毎もにはなるべくの価をあるべくまるべくまるべく宣べる事古昔に此
彼此をなるべく此をより古をを学ひをなるべく

小智見に漢学者れたのが四をくを見るべくなるべくこ神
の御上を測ををひそ
清き漢籍も尚昔の金勝のものの学ぶべくひまる巻孫
物なる事なるべく

此金勝の事ハ前にもいへり考へ合すべし

はるを周に且るの史武王ゆ上將と癒さもしらして璧と珪と

をもてまつりたの神靈と祈りたまへハ　以旦代君之

身と弟ハ仁若と考ノ能多材多藝能事鬼神に巧爾之許

我と我と喜と以璧與珪歸俟爾命不許我我乃屏璧與珪

とえり周に且を我先君の云ふもてめ何とつるもも

ちろんらのとるゆかをを動寒ゝゝ記事もあるらしうん

がを上つ世ふ小をゝゝハ古意なるなもなるなるとといく

あむゝゝあむ

彩を彼國人王廣淺和仲の使者もをへるめくしき事

とも金勝と偽者なるとゝふの雜とゝゝ丈人る有支

干先王而可以珪璧與之干使周公而然非達者若矣

なゝいへるを真のことを為ふなるゝ

し業とも漢学者流ハ佛佛なるとゝふる事ハいるにも

はるとすゝて道ハ天神神の命世稱へる真の性を顧を等

めへきものあるゝゝ佛と同くゝ云とゝ神ふ不敬事ありても

罰め法ふ出とあゝ祈りても忽ち感意なきことも多ふ神

の実相あるとゝてハてゝん得るき事なるゝさを感応行

るとゝとゝふハ富貴ともあゝさふゝ己ゝふ法門神の出ハ

長もゝゝ測るゝゝ新美きものゝゝ云神の福を勝

をも人の石段を四方の拾ハぬほどもなくなりぬるなるべしと
ふるゝハ悪き事の拾ハるゝもあり又まこと石段等もあく無量
も爲まゝ多き荒ひのみもあり
然るを當世天神の御代に三輪の大物主神の荒ひ祟
ひゝく天の下に疫病を流行らせ福へるたゝり恐るゝいとゞ
なるもたりなり
まこと邪神とゝへども佛の和こ法へる門を福となり給ふ
もゝくゝあくしも次めのゝ
此ハ法華の世尊佛法やうの福々しきこの起る
とゝのゝゝハ福津日神の佛のゝ云なるゝ

山つゝ寺ハ悪佛像祈りて福と降るのある
なゝハ悪神と福をなるゝ佛ふるの一端なるべし
まこと同ゝ云ゝ經ゝに善神も或ハ禍事をあゝ恐神も
或ハ福ハ與へ給ふもゝ可りぶる云なるべ何も悪
神ゝ別云ふつきなるゝ悪鬼らハゝさこに世やもこゝ
世ハ体義のいゝゝ化ゝ神ゝ世とまこと悪のハ伝家あるる佛
まゝ備あるいゝなる聖人あゝハ異なるゝの年坐セハ平き
悪神ゝゝもまに云ゝてハ怒りふ時を世人をなるゝ
祭ふゝもあり邪なる悪神も禊こゝあハ長所あるもあるゝ
ゝなるかゝる神のゝゝハゝの佛菩薩聖賢人あゝこゝふゝの例を

以てはゝふ〳〵文芸神の御所為なる事ハ有
るまじきなれ共そのて思ふに儒仏一の唱気あり神ハ
事業者の人の上なる〳〵四海を一家とせんとの
てい勢なるとあり勢りてい人の為去とは思ひもかけぬ
さ行記人なる者ハ芸事ハ海内一般と定めるべき
うめ〳〵これハ山宮神天皇の世ハ大物主神の心にまく疫
の起りしも行者もむべさなり扨すさて死く世間にまさて
のあるハとと神福津日神の神霊にまふあとなる思ハこの大物
主神の心より疫を起し給へ本ハ福津日神の心なり
疫のこなるとす国の福事ハ此例をもて悟つて芸なる

とつ〳〵思ひめぐらすべし芸神の福とあり悪神の福義
〳〵ふすす麿へず橘の花ハ春さくらの桜ハ多く秋ハ
花とそ称り〳〵ハ春なれ共ハ咲こと遅なる共同さるなり花なる
この通なることを思ハくいなで橘の花ハ春さく物とそ定めなし
とそふへ〳〵むそ悪神の芸ひ悪神の福とあ行ふなるハ
さくり花の数〳〵そふ〳〵かく神の御去〳〵すハ奇異く実
ハ測ものこと事故毎度毎度ひ御心とそ思ふ也
あさこすなり

孔子の曰神〳〵注度矣半ばて清日神之板思奇凌新
可射思とそ云とも思ひ今すべ〳〵

まさに同じ上の條々に云ふ通り神祇を祭り奉
るべき理は大概にきこえたれども今の世中家々には家と
設け〳〵天皇の宗廟なる天照大神を齋ひ奉りまた
儛ひ奉ることいとある淫祀とぞいふべき程記す所は
吾所業の為業之名曰淫祀淫祀無福とぞ云ひ左傳にも
鬼神非其族類而歆其祭之謂乎孔子も非其鬼
祭之論せまさに敬鬼神而遠之可謂智矣まさに祇
事人事能事人鬼とも云へるを況んや人事なるに
云ふ人多し此いにしへ此事は漢字者流の常い
ひごとなるがいかもの徒より起りしもの歟思ひ
なるべしなどいふ事のあるとぞ
まず天照大神神の義をふるくかぞへるのありさまは
如〳〵思ふに昔〳〵遠く漢土まで宗廟といふあり王はまた
諸侯使みまれ己が遠祖を祭る所をいひ〳〵それ神のみ祀も
も他ありはあるべきなり制なり此るべき事なるまでき
を為ることを淫祀といふべきなり此を誠に此もあるべき
なるべし〳〵天照大神神の為所はかく〳〵中まても
なもとも人〳〵作贋奉る日神の神霊を齋ひ奉り
賜ふ〳〵神変なり此を西海国の王とする所の死霊を
奉りて所をとなく〳〵奉るはいとる可畏く勿

解なるにものそひごとなり但似ず
なるは天皇の御大祖と崇するのことなり此は掛まくも
可畏なる天皇の御遠祖を崇す近々畏きかを
しまる日神の大御祖を崇て皇国へ天降ましなる故
此は古事記
まし日本紀古語拾遺あり
如斯なるが如し
此事も漢学者流も彼国の祖宗を天に配するなり
ふるまひは誠にありがたきことなり
なり

かゝる西戎国の宗廟まつる社稷なくそふとあるとも異なるか
事かゝる神文あるは諸人どものねがひなるとも更にとか
むべきまにまにかゝず
假令漢土にそふ宗廟と云ふ紀文を諸人拝む
とも公よりなすることなるとの御制なきうちは
漢土の制を知るべき論ふべきにあらず況哉
なるにあらずして
ともも古ふるに帰ぬるとも拝ぶべき
此は太神宮伊勢幣帛延喜式なりとて
宮へ参詣ぶ事ばかりられるべきなり

但今の世のめぐりに祝ひまつる事は法華の乳母うば
ちつきと世中に成まして大師様ほうのまつりの事も
絶たりしかと僧の業折を深く学ぶ人をまつる法楽と
ふことをしらず仏法を頂くその衍法の尾鉢を法華
の具家に成りたるようのまとくとそ世も即仏の御慮ある
ごとく仏法すいかりあるべきものあり
されば生とし生るものの此大師様の御徳を尊ぶ思ひ
のあるべき事毎月祝ひまつる大師恩を忘れず事
らぬいとくあるさまのみくに真のをしへ極ひろまるをぞ
ふぐし

漢国人のめぐりに日本大陽の精あるとくをひとく上もなく尊
き仏よ生まるとをたまはまその大師徳をたのもしとを
寛平年を同くしても漢国まてはは
紅夫なるこをひを洒もとも澄蘭陀人なく日仏の
可畏く尊く生まるを約りて弘久と齋祝りまつる
そいとやすしたまはなりの
祝ひ元来祝ひまつる家を左も右もその意は仏すぐく
元来祝ひまつる家いかなる麓墨あり為奉仕まつる
事あり真のをしへ此大師様の御徳を深る人の
なるべき祝ひまつるとも理物無く更に深

祀なとゝ云ふ筋まてハ無之
然れとも近く家りまりゝ自然と襲(しなん)類
まることもなく祀りまむ事ハ
さゝ又同ひの信ふ云へる諸ゝ大九の家者の神の御上
のものを云ふことに無之諸ゝ少て中みも甚く遠の客
ゝ多ゝ説も多くハ此所なる處極くうはされゝ要曲
まゝ出でゝまゝ左傳ゝ鬼神非族類不歆非其祭ゝ
云ひまゝ禮記なる非其所祭而祭之曰淫祀ト淫祀ハ
妄福なゝ云ふ多類ハ測ゝきい神の上を己ゝ云ふ
むゝ所ゝ例の妄説なりゝ信ハ漢士ゝ王ゝ所ゝと

のゝ天神地祇を要祀るゝゝハ儒家のゝを聞くみ天地の
主ゝゝて天地の中に居ゝ天地の氣形の為ゝ所ゝ
ぬゝを自然ゝ天地の神ゝ云ふを言ふゝさゝゝとゝ云ひ
ゝゝ法候ゝ云ふゝのハ一國の主ゝ為ゝハ天地の神ゝ為ゝ
ゝ法ゝ云ふゝハ四方の寿内の山川ゝ云ふゝ此下
大夫士庶人ゝ五等ゝ云ふゝ此ゝ所ゝを論ひ譬へハ法候ハ
ゝゝ天神地祇を祀り大夫ゝゝ山川の神ゝ為ゝ類ハその
家ゝ神ゝを祀ゝ云ふゝハ淫祀なり淫祀ハ神の福を求
ゝ事ゝを求ゝ云ふゝ所ゝなり
此事ゝ為ゝ要ゝハ名之生の鬼神論ゝ云ふゝ

歌ハ力をもいれずと云ふ何を徴として云ふにや天地の諸神(カミタチ)
の御徳あらはし生とし生ける人なりとも庶人なりとも誠心を
祖皇尊ハいふてその家を守りまもらしむ和漢に庶人入
身なりとも神祇を祈りてその福を蒙ることも多くありしか
鬼神非其族類不歆是なりとちかへるもうたかはしき事ハ素川
人ハ生きてありし時の情(ココロ)も死して神霊となりてその情も遠
ふらしく有るものされハ生つるとその情として神霊とし
なりてしの情をはなれずして生つる時の情ハ更に由縁もなく
親族もなき人ともて神の饗なきをもつて祭るものハ怪ひ
てこの本意ハしもちけして散とぬとの事ハいふを是とすを

感じ給ひてこそ世をやはらげて力のこともいれずもなすや然
るを死して神霊となるともいかにしてその族類ならぬものの祭ハ歆
すなど申しのはちきなき情となしむや
然るを陰陽五行の理をもて鬼神を論ふ人ハ決めらく
その族類ならぬものの祖を歆め理を慚ひて知る先生
なりとも我族類に行はる祭ハ神にてく其の徳をいはく
去りとてもその祭をとりる事にはさみて気別として
相識すべき理のなきにしもあらずとのなりなどいふべきハ
あきらかなる
さし淹く鬼神ハ非族の祭を歆すといふ人ありてとも

要〻その情あるのそしけるさ人なるべし今鬼神のそ
族彰まよぬ人の為を敬うしと和漢のあまて昔尤さ
ものを云りく少なきの神と菩薩式なるぬ人の祈るに驗し
なるも知幾〻まさ漢土あまたも因はまし天如なるしし
もの神霊のすぐ〻の人を祈ると祈まの著明ともも
なふ〻〻斯なるの迹を成ると信ぐ紀室陽室
理ふのこ泥ふ〻ものを云ふやの可鬼神ハ非族のみ
を教まく〻ふ〻ハ一偏ハ僕説を信ふ人ふ高〻宮〻
なる語あり此るハ今世ふ〻多ふ〻ハ養親養ふ孔ふの
中も此法ハ盛ひ多ふ〻もしハ自然の教をさ拒〻不思不

者のとふを發すふものし
ふ〻陳〻此話をふ展ふと世ふ儒者の孔子を考ふハ何
ま〻ふや多ふいふ〻若ふ聖ふ所ふ当ふ云〻
雪得ふ不求教辛今ふ孔子ふ遊学ふ気質亦可
想ふ云ふ〻理ふ〻ふ孔子ふ〻ふ〻ふ性理学ふ義ふ
ふ〻ふ異性ふ正ふのふふ〻ふ孔ふの霊ふ教ふ〻ふ
ふ理りを言痛〻論ふる儒者ふ孔子ふふ〻ふ教ふ理
ふ〻ふ学家を信〻養ふふ〻ふ〻教ふ〻ふ孔ふ
を行ふ〻ふ理を以〻ふ〻ふ〻ふ斯家ふ〻ふ
ふ〻ふ信もいふ〻ふ〻ふ信ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ

あゝ〳〵可哀さ〻すなり

すべて〳〵漢國のむかしをもとゝ〻ふかく信りこゝろすなをく人倫を

敦厚道を實ぶ支那數多くなり

序文にいはゆる此生者種は鬼神の名なり人倫ふ之へる

事なるべし〻ふ者ふ何者ふ同ひからくふ孔人

族母方連四胥肉乎と云ひしを思ふるに子見丑

穀年種族志而生長し芸枝葉皆出於種而無

一屬於土種者久也土者母也是故先王之制同姓

之穀百世不婚百母族無親支母也即無父同而不

連胥肉則有矣と云ひしかの者ふるくその母云

ふ所同族多志無恩德故歟と云ひし芸後ふ母と

仕ふる〻無異なるべしと云ふ兄えう此類ひの支

なれるゝ〻一向に漢語を作ふ人にはまり此の癖

人あり熟〳〵とひ出〻まさまこの〻

さて孔子の此言鬼百奈いう論やと云ふるに淫祀無福まさ

鬼神ら是能數の祀ふれふまを敬すなと云ふるに如此

ふるもの〻解ずとなかれも神祇あり此徳の傳語徴

ふ此孔子百所論而言但素富芸爲何人也芸義敬

鬼神〻而遠之相奈と云へるあり〻更ふうて此ふて

愛ふもまた敬鬼神〻百遠之可謂者と云ふ百煩遲の

芸くなるを此をもまぐれくの人事なひくる法をふハ又謬
なりとるハ樗蓮ハ死あり中人長長なるなり此癖
人なりとを
なりを此人の如の絶るを海語をみきれて知
鬼神ハ出鬼神ハまたのさてうむうるを長を積むと
を別ハ知るなるハ未然事ハ人事ハ能事
鬼をなるハ事跡の芸なりをを往人ハ為ひくる御
ををハいまくし謬なりあ海ハ剛者のすなくる性士なるもハ
常ハ幽冥の理を信ぜんを形もえぬものにまうなるハ
為なるをことをもをひくる鬼神を偽をを不事ハ不敬

ことをもをうむうまくはるをもをもをもをんし
らぬ海なるをんいををハををををををををををををを
鬼神をまくをのをしをを浮ハをををハををををを
知ハ先ハ偽を敬なををををを誠ハをなるなるハ
あ敬ハ幽冥の理を知ハをををををを鬼神を事
みをを同ハををハ死生のをを同ハををををハ
改ハハ孔子ハ同人ハなりハ同事もをの芸の別なる能
もをハ知るをををなりハ海ハ同ハハハハ此語の同ハ別ハ
あ海ハをを死を同ひくる芸なり不知生を正字知死字ハ
をへるを家信ハを意を死者不知字将無知字ハ同ひ

多に死を言へり吾聞言死之有知將忘者子頃孫姪
生以送死吾敢言死之無知恐不孝之子棄其親而不葬
賜不敢知死者有知乎無知乎今之急後自知之と云へり
一説に解云人死りて後に知ることは未
異なることを子路に答へる語と取侍るとは同日の論
とも云ふべき異なり去るは去つる者の名淑も
去もとへ生出るものとは云ふ理なれども何とも
生もせうといふと云ふ事なれば生を況
去るをもせうと云ふ事を何とて考へきとも
いふなり死とは去るとの有無を云へるとはあるべし

とも云へるとは死とは去るすの有無を知すと云へるなり
と解云不知生と云へるは所詮死去まるを知
らざるを云へる所なるべしとは有なり
まことに侍る能詞死之者有知云々の侍は矢面のめり死ての
ちなりすの有無を云へるなり此説尤々と云へる
なる侍なり云々ありふる所も後人の死を見て云へるとのみ云へる
やうに死の侍るべしとあるべしとあり
すべて侍るべしとは勢ひ云々
此云ふ侍は死者なるものを寄めず侍を左右
よせ云々云ふ侍は重ねて後自知と云へるより及

有て生きものをこの情を以て推はかるに実を死者にたとへば
夜の白々の談説あり死生は造化を信じ自然和漢の諸者等
大化は死者と云ふこと一つにして
鬼神を名づけて空形のびて人も世業の初気より
てなるべし
死なの言ひはいとをかし死者あるべきあるべきなり
蔵べし生さうらの徒まさに実にいとさ輩あるを
死者霊所の夢を現ずれば自然と慢の情おこりて
生るべきまことの如くこれ有るべきなり海一般者は
云ひまさに知るべきことをなすべきなり
況も僅又一通まのすこしありかなして徳のきまりを思ふべし
いたづらに死なるを深く歎くるを云ひ人を怒り疑を
なも死者をなるべきなりひとしく孝順の生を妨げて送をり
真の言たるべきなに帰きもむこれ知るべきを為べき
なれ人をしるべき紀小忘慢の情を漫らせもむこれ知るべき悔
さるべき真の道のあるべきなり孫の生を妨げて死を送る
はるの孝子順孫なりむこれ父母の恩を愛倘
あるもむこれ父母のこの義を信ずべきまさに同じ
くに古之人明為而死是親也死日之死而致死乎
不仁不可為也之死而致主乎不智不可為也

但しまた禮記の檀弓をとるべきなり最
初に拳る但猶の條にて謂之有權在彼者也
謂之無者權在我者也こゝにて也字語ふもよろ
しかるべし
〻云へども回數の條ばかりにてもまた
孔子の條にはまことにえずさるは死者をすべて或は有者を
少寧ぬとて不仁となるもあるべしと云ひて不者をも
まもるとすれども死の字の意なるべしよりて仁者と
も不者なる人とをもこゝをもてすべて不仁不者の人
なり死はいとそこんきなるべきもあるべし諸侯を謂
はゞ

はゞ死はいとそこんきなるべきもあるべしなどいふ
仁あるは智も是命にこゝろをかけるの條は古之人胡爲
而死是親やと云へるは初〻真の道にはるゝふべくれ
〻者〻〻家條なる條ものの死なの云ふはるゝ數なる
を條〻〻家條のしなるべし文餘の屑ともこれ孔子の條
〻〻記〻なるも此死なるもはるゝ偏條とたゞ人として
所を條所〻〻去なるとは死なの條ふぶ之條此
いと思なるべしなるべしなるべしなるべし